



日々明朗 日々努力

飯豊中学校
令和2年度
第5号
令和2年6月23日
文責：小野明彦

笑顔あり、涙あり… たくさんの「ありがとう」で3年生が輝いた感謝祭



開式のアナウンスの後、吹奏楽部の演奏に合わせて野球部を先頭に堂々の入場行進。たくさんの保護者の方に来校いただき、凛々しいユニホーム姿、道着姿の中に笑顔が輝いていました。

ステージの上に整列した姿は、最上級生として頼もしい姿に成長していました。3年生代表の言葉は、自治会長の勝見薫さん。

「…新型コロナウイルスの影響で一番の目標を失ってしまいました。この先、何を目標にして前に進めばいいのかがわからずにいる私たちですが、この会を少しでも励みにして、残りの部活動や新たな目標に向かって頑張っていきましょう。また、この会は、ここにいる仲間や支えてくれた保護者の方々、コーチ、先生方に感謝をする会でもあります。部活動で成長した姿を私たちが全力で楽しみ、頑張る姿で表しましょう。吹奏楽部、美術部の皆さん、2年間、私たち運動部を支えてくれてありがとうございます。吹奏楽部の演奏や美術部の応援は、私たちの弱気な気持ちを奮い立たせ、絶対勝つという強い気持ちに変えてくれました。そして、保護者の皆様、今日はお忙しい中おいでいただき、ありがとうございます。感謝の気持ちを、言葉、態度、そして表情で表します。どうぞ、受け取ってください。」3年生一人ひとりのあふれ出る思いを代表するにふさわしい、胸の熱くなる代表挨拶でした。



その後、部活動ごとに一人ひとりからの思いの発表がありました。顧問の先生に向けた感謝のメッセージの最中、笑いのツボにはまって先に進めなくなった部もありましたが、届けたい思いがよく伝わってきました。どの部からも、

一人ひとりが部活動を通して学んだことやお世話になった方々への「ありがとう」の言葉がたくさん聞かれる素敵な時間となりました。こらえてもこらえてもあふれ出る笑顔と涙…。3年生のこれまでの懸命な努力と学年としての仲のよさが感じられました。自分たちの健闘を称える応援と校歌も気持ちがかもっており、心にしっかりと焼き付きました。



ぎやくたい
「虐待」から生徒を守ります

確証がなくても生徒の安全を最優先に

子ども虐待対応件数、2018年度は約16万件 …前年度から20%増で過去最多
(2019年8月1日 公表値)

次世代を担う子どもたちが健やかに育つために、絶対にあってはならない児童虐待ですが、深刻な虐待事案が後を絶ちません。厚生労働省によると、2018年度の全国の児童相談所における児童虐待相談対応件数は、15万9,850件と過去最多で、28年連続の増加となっています。昨年、「野田市小4女児虐待事件（千葉県）」が発生し、同年5月文部科学省は、「学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き」を公表しました。この手引きは、私たち学校関係者が児童虐待の対応に留意すべき事項をまとめたマニュアルです。



学校および教職員は、子どもの変化に気づきやすい立場にあると言えます。それゆえ、私たちには重大な人権侵害である「虐待」に十分な役割を果たすことが求められています。そこで、本校においても、以下の点に特に留意しながら迅速な対応を進めていきます。

- 1 「そんなはずはない…」という先入観をふりはらって生徒と向き合います。
- 2 保護者からの抗議の恐れ、虐待を一層深刻化させてしまうのではないかとこの恐れによって通告を躊躇することなく、毅然と対応します。
- 3 「いつものこと」などと虐待の実態を見過ごすことなく、生命の安全を確保します。
- 4 親しい間柄から「あの人は仕方がない」などと看過することなく対応します。
- 5 生徒個々が抱えている問題行動などと虐待の問題とを総合的に関連付けて考慮し、改善のチャンス^つの芽を摘まないよう配慮していきます。

日常生活における生徒との関りや観察の中で感じる違和感や本人からの直接の訴えにより、**虐待が疑われる場合は、すみやかに児童相談所に通告**するとともに**町の関係機関に連絡**します。また、生徒の生命・身体に対する危険性、緊急性が高いと考えられる**身体的虐待や性的虐待が疑われる場合は、警察にも通報**します。スクールカウンセラーの先生にも入っていたきながら、チーム一丸となって問題解決にあたります。

【児童相談所に通告する場合】

- ① 明らかな外傷（打撲傷、あざ<内出血>、骨折、刺傷、やけどなど）があり、身体的虐待が疑われるとき。
- ② 生命、身体の安全にかかわるネグレクト（栄養失調、医療放棄など）があると疑われるとき。
- ③ 性的虐待が疑われるとき。
- ④ 「家に帰りたくない」など、子ども自身が保護・救済を求めているとき。